

## 主要枕詞ことば一覽

ある語句を言い起すために、その前に置かれる語。五音節以下で、かかる語との関係は固定的である。上段が枕詞・下段がかかる語。

## あ

あがころ [吾が心・我が心] 明石 [あかし・清隅<sup>しみずみ</sup>・筑紫<sup>ちくし</sup>]  
あかねさす [茜さす] 日・昼・光・紫・君

あきぎりの [秋霧の] 晴る・おぼつか  
なし・籠<sup>かご</sup>る

あきやまの [秋山の] したふ・したひ・色なつかし

あさがすみ [朝霞] 鹿火屋<sup>しかや</sup>・八重<sup>や</sup>・春日<sup>はる</sup>

あさぎりの [朝霧の] 乱る・惑<sup>まど</sup>ふ・おほ<sup>お</sup>おほ<sup>お</sup>る・八重<sup>や</sup>

あさごほり [朝水] 解く [うち解ける] 疾<sup>はや</sup>く

あさちは [浅茅原] つばらつばら [うくまなく・まんべんなく] 小野<sup>の</sup>

あさぢふの [浅茅生の] 野・小野<sup>の</sup>の野

あさつゆの [朝露の] 消ゆ・消<sup>き</sup>いのち・置く

あさもよし [麻裳よし] 紀城<sup>きじょう</sup>あしかきの [葦垣の] 古<sup>ふる</sup>・思ひ乱る

あしがもの [葦鴨の] うち群るあしたつの [葦鶴の] 音泣く・たづたづたし

あしねはふ [葦根這ふ] 下・憂きあしのねの [葦の根の] ねころも・短

し・分く・渥<sup>し</sup>・節・憂き・世・夜

あしひきの 峰・山・尾の上・岩根・葛城<sup>あから</sup>から山・笛吹<sup>ふえ</sup>山・岩倉<sup>いはら</sup>山

あぢさはふ 日・夜昼知らずあづさゆみ [梓弓] い・いる・ひく・はる・本・末・音<sup>おと</sup>

あはしまの [粟島の] 逢はじあまはしもの [天雲の] たゆたふ・はるか・ゆくらゆくら・行く・別れ・別る・奥

あまさか [天離る] 鄙<sup>ひろ</sup>・泉<sup>いづみ</sup>・向かふ

あまつたふ [天伝ふ] 日・入り日あまとぶや [天飛ぶや] 鳥・雁<sup>かり</sup>・軽<sup>かる</sup>

あまをぶね [海人小舟・蟹小舟] はつあらかねの [粗金の] 土

あらたへの [荒砂の] 藤<sup>ふじ</sup>あらたまの [新玉の・荒玉の] 年・月・日・春

あらひきぬ [洗ひ衣] 取替川<sup>とりかひ</sup>ありそなみ [荒磯波] あり

あわゆきの [泡雪の・沫雪の] 消けあをによし [青丹よし] 奈良あをはたの [青旗の] 忍坂<sup>しのさか</sup>の山・木

あをやぎの [青柳の] 糸・葛城山<sup>あから</sup>ををよきの [青柳の] 糸・葛城山<sup>あから</sup>細き眉根<sup>まゆね</sup>

いさなとり [鰯取り] 海・浜・灘<sup>な</sup>いそのかみ [石上] 古る・降る・振る

いははしの [石橋の] 間<sup>ま</sup>・遠し・近しいははる [石走る] 滝・垂水<sup>たき</sup>・近江<sup>あふみ</sup>

いゆししの [射ゆ獣の] 行<sup>ゆ</sup>き死ぬ・心痛し

うたかたの [泡沫の] 憂き身うちなびく [打ち靡く] 草・黒髪・春

うちよす [うち日さす] 駿<sup>う</sup>都<sup>つ</sup>うちよする [ち寄する] 駿河<sup>うま</sup>がうつせみの 世・人・命・身

うばたまの [烏羽玉の] 黒・夜・髪・夢うまさけ [旨酒・味酒] 三輪<sup>みづ</sup>・三室<sup>みむろ</sup>

うもれぎの [理もれ木の] 下・人知れぬ・隠<sup>かく</sup>る

おきつなみ [沖つ波] 競<sup>お</sup>はふ・頻<sup>ひ</sup>く・挽<sup>ひ</sup>む・高し

おきつもの [沖つ藻の] なびく・隠<sup>かく</sup>る

おくつゆの [置く露の] 斯<sup>しか</sup>かる・阿田<sup>あ</sup>・白麻衣<sup>しろまゐ</sup>・玉造江<sup>たまづ</sup>・玉江<sup>たま</sup>

おしる [押し照る] 難波<sup>なに</sup>におほきみの [大君の] 三笠山<sup>さんかさ</sup>

おほくちの [大口の] 真神<sup>まかみ</sup>おおともの [天伴の] 御津<sup>みづ</sup>・見つ・高師<sup>たか</sup>

おほぶねの [大船の] 思ひ頼む・津渡り・たゆたふ・ゆた・ゆくらくゆく

ら・香取<sup>かとり</sup>

## か

かきつばた [杜若・燕子花] につらふ

かぎろひの [陽炎の] 春・心<sup>こころ</sup>・燃ゆ・はのか

かくれぬの [隠れ沼の] 下・水隠<sup>みづかく</sup>り

かたいとの [片糸の] よる・より・くる

かむかせの [神風の] 伊勢からころも [唐衣・韓衣] 着る・裁つ

からにしが [唐錦] 裁つ・織る・縫<sup>ぬ</sup>ふ

かりこもの [刈り菰の] 乱る

かかやの [刈萱の] 乱る・思ひ乱る・穗<sup>ほ</sup>に出づ

くさまくら [草枕] 旅・旅寝<sup>り</sup>・度<sup>たび</sup>・多胡<sup>た</sup>・結<sup>むす</sup>ふ・夕<sup>ゆふ</sup>

くすのは [葛の葉の] 心<sup>こころ</sup>・恨めし・恨み

くれたけの [呉竹の] 伏し・伏見・代<sup>よ</sup>・世・夜

くれなるの [紅の] 色・浅<sup>あさ</sup>・うつし・振り

くれはとり [呉織・呉服] 綾<sup>あや</sup>・怪<sup>あや</sup>・ながき

こもりくの [隠りくの] 泊瀬<sup>せ</sup>こゆるぎの [小余綾の] いそ・急ぎ

こもでの [衣手の] 別る・帰る・田上<sup>あがみ</sup>・高屋<sup>たかや</sup>

## さ

さきくさの [三枝の] 三<sup>みつ</sup>・中<sup>なか</sup>・さきがにの [細蟹の] いと・いづこ

ささなみの [小波の・細波の] 寄る・夜・怪<sup>あや</sup>

さすたけの [刺す竹の] 君皇子<sup>み</sup>・大宮

さばへなす【五月蠅なす】荒ぶ・騒ぐ  
しきしまの【敷島の・磯城島の】大和  
しきたへの【敷き袴の・敷き妙の】  
枕・袖・衣・黒髪・袂・家  
しなてるや【絳照る（や）】片岡山・  
鳩・海  
しらくもの【白雲の】立つ・絶ゆ・竜  
田  
しらたまの【白玉の】緒・絶えの橋・  
を止む・縋捨山  
しらつゆの【白露の】おく・消ゆ・た  
ま  
しらなみの【白波の】よる・あと・な  
ごり・うち・かへる・いちしろし  
しらたへの【白袴の・白妙の】衣・袂  
袖・藤・雪雲・波  
すがのねの【菅の根の】長・乱る・  
ねもころ  
そらみつ やまと(大和・倭)

## た

たかてらす【高照らす】日・ひ  
たかひかる【高光る】日・ひ  
たくなはの【袴繩の】長し・千尋  
たまかざる【玉かざる】日・夕・ほの  
か・磐垣淵  
たまかつら【玉勝間】あふ・安倍・あ  
たまかつら【玉葛・玉蔓】遠し・長し・  
這ふ・絶ゆ・実ならぬ樹・花のみ咲  
く  
たまかつら【玉蔓・玉縷】かけ・かげ・  
おもかげ  
たまきはる 命・うち・幾世(幾代)  
たましくけ【玉櫛笄】ふた・箱・覆ふ・  
あく・奥・み

たまだすき【玉櫛】かく・うね  
たまだれの【玉垂れの】越智・小簾  
たまつさの【玉梓の】使ひ・妹・人  
たまのをの【玉の緒の】絶ゆ・長し・  
短し・つつ  
たまほこの【玉梓の】道・里  
たまもかる【玉藻刈る】敏馬・辛荷  
から・沖・をとめ  
たまもなす【玉藻なす】浮かぶ・寄る  
・なびく  
たらちねの【垂乳根の】母・親  
ちはやぶる【千早ぶる】神  
つがのきの【梅の木】の つぎつぎ  
つきくさの【津草の】移ろふ・消す  
つきのくにの【津の国の】名には・流す  
・ながらふ・此や・来や・見つ  
つのはさふ いは(岩石)  
つゆしも【露霜の】秋・置く・消け  
寒さ  
つるぎたち【剣太刀】名・己・身・と  
ぐ  
とぶとりの【飛ぶ鳥の】あすか  
とほつひと【遠つ人】松・雁・無道  
としびの【灯火の】明石  
とりがなく【鳥が鳴く・鶏が鳴く】  
東・うま

## な

なつくさの【夏草の】野鳥・思ひしな  
ゆ・あひね・茂し・深し・かりそめ  
なつころも【夏衣】ひとへ・うすし・  
裁つ・着る・すそ・ひも  
なよたけの【弱竹の】とをよる・夜・  
世・齢  
なるかみの【鳴る神の】音  
にはたつみ【庭漣・行漣】流る・川

にほどりの【鴉鳥の】潜・葛飾・  
なづさふ・息長・二人並び居る  
ぬえどりの【鶴鳥の】のどよふ・うら  
なく・片恋  
ぬはたまの【射干玉の・野干玉の】  
黒・夜・闇・夕・髪・夢・月  
は  
はなすすき【花薄】はにいづ・ほのか  
ははそばの【柞葉の】母  
はふくすの【這ふ葛の】遠長し・後の  
・行く・へ・絶えず・下・たづぬ  
はるがすみ【春霞】春日・立つ・立  
田・居る・井・よそ  
ひささの【久方の】光・天・月・日  
雨・雲・都  
ふかみゐの【深海松の】深む・見る  
ふゆごもり【冬籠り】春・張る  
ふるゆきの【降る雪の】消・行き・白  
髪・糞代衣  
ま  
まかねふく【真金吹く】吉備・丹生  
まきばしら【真木柱】ふと  
まきもかる【真孤柱の】淀・堀江・美  
豆・玉江  
まさかがみ【真澄鏡】見る・掛く・清  
し・磨く・照る・面影・影  
まがつねの【松が根の】待つ・絶ゆる  
ことなく  
みこころを【御心を】吉野・広田・長  
田  
みつづきの【水茎の】水城・岡  
みつとりの【水鳥の】うき・たつ・鴨  
みつつし 賀茂・青葉  
久米

みなせがは【水無瀬川】下  
むらきもの【群肝の・村肝の】こころ  
むらとりの【群鳥の】朝立つ・立つ  
もつぎの【望月の】たはし・足  
れる・めつらし  
ものふの【物部の・武士の】八十・  
五十・  
ももしきの【百敷の・百磯城の】大宮  
ももつたふ【百伝ふ】八十・五十  
や  
やくもさす【八雲さす】出雲  
やくもたつ【八雲たつ】出雲  
やすみし【安見知し・八咫知し】  
わが大君・わご大君  
やまがはの【山川の】たぎつ・おと・  
あさ・はやし  
やますげの【山菅の】やまず・乱れ・  
背向  
ゆくとり【行く鳥の】争ふ・群がる  
ゆふだすき【木綿襦】かく・むすぶ  
ゆづつよ【夕月夜】晩間  
ら・入る  
わ  
わかきさの【若草の】夫・妻・新  
わきもこ【我妹子に】逢坂・山・淡  
海  
わきもこ【我妹子を】いざみの山・  
早見の山  
をしどりの【鶯鶯の】憂き  
をとめらに【少女らに】行きあひ・逢  
坂